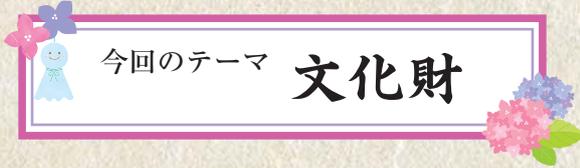


肝付町の教育・文化・スポーツの今



今回のテーマ **文化財**

教育長の上久保 秀樹です。
 今月は、肝付町の「文化財の保存・活用」についてご紹介します。



文化財は、長い歴史の中で生まれ、そして、はぐくまれ、今日まで守り、伝えられてきた貴重な財産です。現在を生きる我々には、文化財を適切に保存するとともに、周到の注意を払って活用することで、将来の文化の向上と発展に寄与する努めがあります。本町も「塚崎古墳群」や「塚崎のクス」をはじめとする数多くの文化財を有していることから、指定や登録等による保護を推進するとともに、文化財を活用した学習の場の提供などに努めています。

本町の八月踊

その起源は古く、江戸時代（寛文11（1671）年）に用水路の竣工にあたり奉納されたなど、様々な説（開田、豊年祝、慰霊、安泰祈願など）が語り継がれています。男性は浴衣に紋付羽織、菅かさ（ジン笠）、女性は裾縋入れ裾模様の着物にお高祖頭巾を被り、踊ります。（民俗文化財：昭和37年、県指定）



二階堂家住宅

新富の高山川沿いに位置する江戸時代（文化7（1810）年）に建てられた武家屋敷です。格式のある部屋を備えた「おもて」と、炊事・作業場のある「なかえ」の2棟からなる寄棟造となっています。（有形文化財＞重要文化財：昭和50年、国指定）



高山城跡

一見ただの山に見えますが、南北朝～戦国時代（14～16世紀）にかけて大隅地域を治めていた肝付氏が拠点としていた山城です。新富本城地区の三方を川に挟まれた場所に位置し、シラス台地の急崖を天然の要害として利用するなど、戦に備えた構造となっています。（記念物＞史跡：昭和20年、国指定）



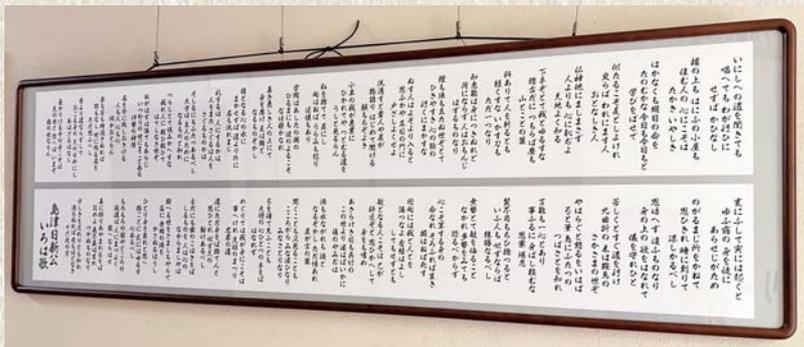
肝付町の文化財 59件
 （国指定8件、県指定3件、町指定48件）

【内訳】

- 有形文化財 21件
- 民俗文化財 10件
- 記念物 28件



西郷隆盛や大久保利通などを育てた郷中教育の基本を歌の形で表した「いろは歌（日新公：島津忠良）」をはじめ、郷土の先人は数多くの教えを鹿児島に残しています。今後も、様々な異学年による学習活動や体験活動、精神鍛錬等を通じて、郷土に誇りを持ち、心身共にたくましい子供の育成に努めてまいりたいと考えています。



「いろは歌」（大隅史談会寄贈）肝付町文化センターに展示